

636号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会 西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所 富山県西部家畜保健衛生所 2022.5.10

くろべ牧場まきばの風で放牧が 始まりました	1
酒かすを給与した「とやま和牛」の ブランド化に向けた取組み	2
高病原性鳥インフルエンザ防疫情報 ...	3
暑熱対策を始めましょう ～気象庁の3か月予報から～	3

県外導入牛から産まれた子牛の牛ウイルス性 下痢(BVD)ウイルス検査を受けましょう! ...	4
令和4年度市町村畜産担当者名簿	5
防疫情報	6
北陸三県和牛子牛市場の開催	6
お知らせ	6

くろべ牧場まきばの風で放牧が始まりました



令和4年4月16日(土)、くろべ牧場まきばの風において「放牧ふれあいデー」が開催され、今シーズンの放牧が始まりました。乳牛10頭、山羊8頭、羊3頭、ポニー2頭が冬の間過ごした畜舎から半年ぶりに広い放牧地に出ると、走り回って解放感を満喫していました。午前中はあいにくの寒空でしたが、たくさんのお客さんが動物たちの写真を撮ったり、山羊に餌を与えたりして楽しんでいました。放牧地で動物たちを見ることができるのは、8時半頃～14時頃とのことです。

(東部家保環境課 神吉課長)

酒かすを給与した「とやま和牛」のブランド化に向けた取組み

県では、令和2年度から、県酒造組合や県肉用牛協会と連携して、日本酒造りで発生する富山県産の“酒かす”を牛のエサに利用した「とやま和牛」のブランド化に向け、酒かすの給与方法の確立やPR活動に取り組んできました。

今回は、これまでの取組みと今後のスケジュール等をご紹介します。

1 目的

「とやま和牛」とは、県内で12カ月以上飼育された格付規格が3等級以上の黒毛和種を指します。本県で生産される「とやま和牛」は、全国でもトップレベルの品質(R2年度のA5比率：約72% (全国第3位))ですが、エサに特徴がないこと、ブランド牛に比べて知名度が低いことなどから、品質の高さが枝肉価格に反映されていないのが現状です。

そこで、日本酒の製造過程で発生する“酒かす”を「エコフィード」として牛に与えることで、特徴のあるエサで育った新たな「とやま和牛」の生産に取り組むこととしました。

2 酒かすの特徴

飼料成分のバランス（栄養価が大麦とほぼ同じ）が良い
アルコールの抗菌作用によって腐敗しにくい
食欲増進効果が期待できる

など、多くの利点を兼ね備えています。

また、本県には多くの酒蔵があり、安定供給できることも優れている点です。

3 取組状況

(1) 給与実証

令和2年度は、2農場の黒毛和種21頭に出荷前3カ月の間、酒かすを1日1頭当たり1kg給与したところ、20頭(95%)がA5ランクに格付けされました。また、令和3年度は、5農場97頭で給与したところ、82頭(85%)がA5ランクに格付けされ、県平均の72%を上回る成績となりました。なお、今年度は、9農場200頭を目標に取組みを進めていく予定です。



酒かす給与の様子

(2) 酒かす混合飼料の開発

ほとんどの日本酒は冬期に造られるので、酒かすは冬～春の時期に発生します。保存中の酒かすは、熟成が進み、時間に比例して形状も板状から柔らかい粘土状に変化します。粘土状に変化した酒かすはベタベタしているため、給与農家から「粘り気が強く給与に時間がかかる」との意見が寄せられていました。

そこで、ハンドリングの悪さを解消するために、長野県の飼料会社と共同で「酒かす混合飼料」を開発したところ、取り扱いが容易となり農家からも好評を得ています。

(3) PR活動

昨年、知名度向上を目的に、県内飲食店で地酒と“酒かすを給与した「とやま和牛」”を使ったメニューを提供するPRイベントを開催しました。コロナ禍の開催ということもあって、限られた店舗での提供となりましたが、参加者からは、「とても美味しい」、「柔らかい」、「甘味旨味が強い」などのご意見・ご感想をいただきました。

4 今後の取組み

今後は、生産拡大や販売促進のため、次の取組みを行います。

- ・本格的なデビューに向けて、“酒かすを給与した「とやま和牛」”のネーミングの決定、ブランド牛の定義付け、ブランドの認証基準の作成、ロゴデザイン等の制作。
- ・生産農場や買える・食べられるお店の情報提供。
- ・知名度向上のためのPRイベントの開催やメディアによる紹介。
- ・給与マニュアルによる生産農家の拡大と生産頭数の増加。

(農業技術課畜産振興班 後藤主幹)

高病原性鳥インフルエンザ防疫情報

高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) については、令和3年10月1日～令和4年4月26日現在、家きんでは12道県23事例、野鳥では7道府県96事例の発生が確認されています。

4月以降、家きんでは青森県横浜町(2事例 肉用鶏約28万羽)、北海道白老町(採卵鶏約52万羽)及び網走市(エミュー約500羽、採卵鶏約100羽)、秋田県大仙市(採卵鶏約400羽)、釧路市(エミュー約100羽)においてHPAIが発生しています。野鳥では北海道、岩手県、秋田県で回収された死亡野鳥28事例(ハシブトガラス、オジロワシ、ヒシクイ、クマタカ)においてHPAI遺伝子が検出されています。(6ページに関連記事)

また、北海道札幌市内では、北海道大学が独自に回収した死亡したキタキツネ1頭、重度衰弱により保護されたタヌキ1頭について検査を実施したところ、HPAI遺伝子が検出されました。いずれの回収・保護された付近でもHPAI遺伝子が検出されたハシブトガラスが見つっています。

環境省によると、海外においてもキツネの感染は数例、タヌキの感染は1例確認されているものの、HPAIに感染した鳥の捕食により感染した可能性が考えられ、ほ乳類間の感染は確認されていないとのことです。

今後の対応として、環境省は北海道と調整の上、野鳥監視重点区域内における野鳥でのウイルスの感染範囲の状況把握と共に、野生鳥獣の異常監視の強化等を実施する予定です。

家きんの飼養農家におかれましては、引き続き、飼養衛生管理基準を遵守し、野鳥だけでなく、野生動物等の対策も継続して実施していただき、本病の侵入防止対策の強化に努めてください。

発生予防対策の重要ポイント

家きん舎の周囲にはウイルスが侵入する経路が多く存在しています。
今一度、点検・確認をお願いします!



◆これまで以上に念入りに、飼養家さんの毎日の健康観察を行ってください。
◆異状を見つけた場合には、直ちに最寄りの家畜保健衛生所に連絡してください。

◎例外を作らずに必ず実施することが大切です!

集卵ラインの隙間からネコが侵入することも!
(農林水産省HP「鳥インフルエンザに関する情報」→)

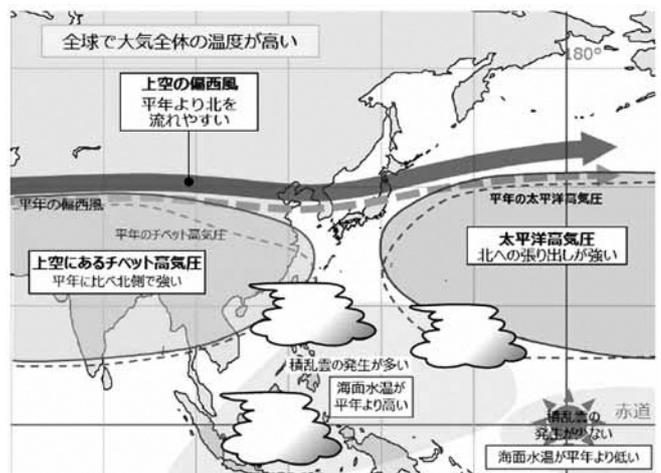
農林水産省HPより

(東部家保防疫課 柿澤係長)

暑熱対策を始めましょう ～気象庁の3か月予報から～

4月19日に気象庁が発表した3か月予報(5～7月)によると、平均気温は平年よりも高い見込みで、降水量はほぼ平年並みの予想です。上空のチベット高気圧が平年よりも北側で強いため、上空の偏西風が平年より北を流れやすく、太平洋高気圧の北への張り出しが強くなり、日本付近は暖かい空気に覆われる見込みです。特に5月は平年より気温が高くなり、6月、7月は平年並みか平年より高くなる見込みです。

本格的な暑さはまだ先ですが、早めの暑熱対策で急な気温の変化に対応できるようにしましょう。扇風機や細霧装置等、資材の納品時期に余裕をもって準備し、設置作業を涼しい時期に行うようにしましょう。



数値予報結果をもとにまとめた予想される海洋と大気の特徴

気象庁HPより

(東部家保環境課 神吉課長)

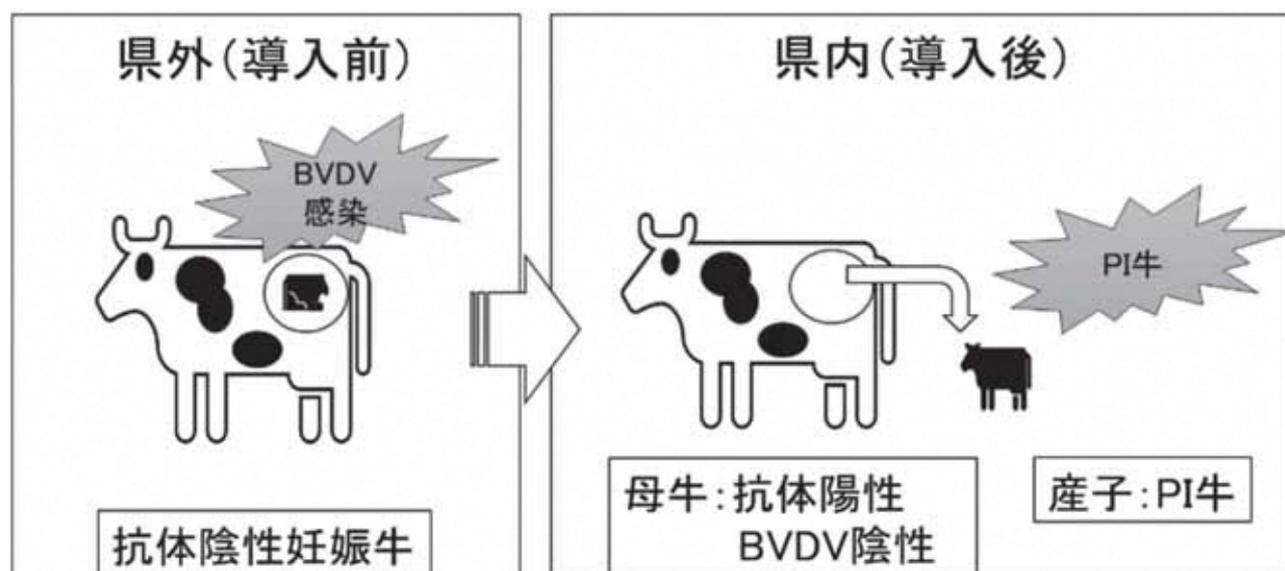
県外導入牛から産まれた子牛の 牛ウイルス性下痢(BVD)ウイルス検査を受けましょう！

牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV) は、子牛に感染すると一過性の発熱や下痢を引き起こします。多くは抗体を保有して回復します。一方、抗体をもたない妊娠牛に感染すると流産や奇形を引き起こし、特に免疫応答が未熟な胎齢 100 日前後の胎仔感染ではウイルスを生涯排泄し続ける持続感染牛 (PI 牛) となり、牛群内の汚染源となるとともに他農場への伝播源となります。

富山県では導入牛検査として、ヨーネ病、サルモネラ、牛伝染性リンパ腫、そして BVD の検査を実施しています。直近では令和 2 年度に導入子牛を PI 牛として摘発しており、外部からの導入は常に伝染病侵入のリスクを伴うと言えます。本県では導入牛検査以外にも 2 年に一度のヨーネ病検査時や育成牧場への預託時などで、肥育牛を除く県内のほぼすべての牛について BVDV 遺伝子検査を実施し、陰性を確認しています。

しかし、ここで問題となるのが「県外で妊娠した導入牛の産子」です。ワクチン接種済みで、すでに抗体を持っている妊娠牛やワクチン未接種でも免疫機能が正常な妊娠牛は感染後に中和抗体を産生し、ウイルスを排除します。その一方で、免疫機能が未熟な時期の胎仔にウイルスが感染した場合、胎仔の免疫はウイルスを異物と認識できず、生涯に渡ってウイルスを保有し、排泄し続ける PI 牛となります。つまり、導入された母牛が BVDV 遺伝子検査で陰性の場合でも、胎仔の感染の有無まではわかりません。このため、「県外で妊娠した導入牛の産子」は、潜在的なリスクとなっています。なお、PI 牛は一般的に虚弱・発育不良を示すとされますが、それら以外に目立った所見に乏しく、臨床的には判断できません。

BVDV のコントロールには PI 牛の早期摘発・淘汰、また日頃の予防対策として繁殖牛全頭へのワクチン接種が有効とされます。牛を導入した際には当該牛の検査に加え、妊娠の有無、分娩予定日についても家保へご連絡いただき、産子の検査をすることが効果的な対策になります。検査により PI 牛発生防止に努めましょう。ご不明な点やご要望などありましたらお気軽に家保にご相談ください。



胎仔が感染したらPI牛になっている可能性あり⇒
BVDV対策は母牛の検査だけでなく、産子の検査も必要

令和4年度市町村畜産担当者名簿

東部家保管内

市町村名	担当課	課長	係長	担当者	備考
富山市	農業水産課	谷井 隆彦	主幹 山口 拓志	(同左)	TEL 076-443-2083 FAX 076-443-2185
	農林事務所農業振興課 (大沢野行政サービスセンター)	余川 洋成	主幹 門田 真典	(同左)	TEL 076-468-2449 FAX 076-467-0684
魚津市	農林水産課	矢野 道宝	農産振興係長 三村 幸一	主任 寺崎 公人 事務職員 片山 和重	TEL 0765-23-1034 FAX 0765-23-1053
滑川市	農林課	石井 正広	農政農産係長 高村 修二	主事 中川祥太郎	TEL 076-475-2111 FAX 076-476-0249
黒部市	農業水産課	産業振興部次長 平野 孝英	農産普及係長 富川 篤	主事 佐々木 亮	TEL 0765-54-2603 FAX 0765-54-2607
	くろべ牧場まきばの風	場長 橋場 和博	係長 中山 助利	(同左)	TEL 0765-52-2604 FAX 0765-52-3925
舟橋村	生活環境課	田中 勝	課長補佐 前原 靖	技師 政二 勇太	TEL 076-464-1121 FAX 076-464-1066
上市町	産業課	酒井 紀明	課長代理 小柴 憲一	主任 村上 淳	TEL 076-472-1111 FAX 076-472-1115
立山町	農林課	野田 昌志	農政係長 中西 嘉尊	主任 間野 達	TEL 076-462-9973 FAX 076-463-1254
入善町	がんばる農政課	長島 努	課長代理 小野塚 義仁	主事 今井 翼	TEL 0765-72-3812 FAX 0765-74-2108
朝日町	農林水産課	竹谷 俊範	主幹 平坂 昌美	主査 廣田 直人	TEL 0765-83-1100 FAX 0765-83-1109

西部家保管内

市町村名	担当課	課長	係長	担当者	備考
高岡市	農業水産課	永井 正之	農産・畜産・水産係長 碓 聡史	主事 下田 拓人	TEL 0766-20-1321 FAX 0766-20-1476
氷見市	農林畜産課	赤倉 哲郎	課長補佐 山下 弥奈江	事務員 田町 陵成	TEL 0766-74-8086 FAX 0766-74-1447
砺波市	農業振興課	栄前田 龍平	農産係長 水上 雅博	主事 満保 佑基	TEL 0763-33-1409 FAX 0763-33-1129
小矢部市	農林課	林 一樹	課長補佐 荒井 宏之	主事 篠原 和真	TEL 0766-53-5849 FAX 0766-67-5009
	稲葉山牧野	場長 大浦 健一	—	主任 田中 崇樹	TEL 0766-67-2607 FAX 0766-67-5313
南砺市	農政課	前山 浩	主幹・農産振興係長 横井 勇昭	副主幹 谷塚 允	TEL 0763-23-2016 FAX 0763-52-6348
射水市	農林水産課	遠藤 修	課長補佐 村中 一也	主任 橋詰 諒	TEL 0766-51-6677 FAX 0766-51-6692

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（4月26日現在）

事 例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数	血清型
18	令和4年4月8日	青森県横浜町	肉用鶏	約17万羽	H5N1
19	令和4年4月15日	青森県横浜町	肉用鶏	約11万羽	H5N1
20	令和4年4月16日	北海道白老町	採卵鶏	約52万羽	H5N1
21	令和4年4月16日	北海道網走市	エミュー/採卵鶏	約500羽/100羽	H5N1
22	令和4年4月19日	秋田県大仙市	採卵鶏	約400羽	H5N1
23	令和4年4月26日	北海道釧路市	エミュー	約100羽	H5

豚熱（法定伝染病）

（4月25日現在）

事 例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備 考
78	令和4年4月13日	茨城県石岡市	一貫	約1,000頭	ワクチン接種地域であるため、制限区域は設定しない
79	令和4年4月15日	茨城県城里町	一貫	約2,900頭	
80	令和4年4月22日	群馬県太田市	一貫	約3,000頭	

国内の野鳥等からの高病原性性鳥インフルエンザウイルスの検出

（4月28日現在）

事 例	検体回収日	検体回収場所	種 名	血清型
68～96 29事例	3月31日～ 4月20日	北海道札幌市、羅臼町、北見市、釧路市、興部町、大空町、斜里町、むかわ町、礼文町、網走市、中標津町、えりも町、浜頓別町 岩手県久慈市 秋田県大仙市	ハシブトガラス、 オジロワシ、 クマタカ、 ヒシクイ	17検体：H5N1 12検体：H5

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
牛コロナウイルス病	牛	4月4日	1	1	
		4月13日	1	1	
ヒストフィルス・ソムニ感染症	牛	3月29日	1	1	
牛尿路コリネバクテリア感染症	牛	4月5日	1	1	
牛パスツレラ症	牛	4月29日	1	4	
豚丹毒	豚	3月24日	1	1	と畜場発見
		4月4日	1	1	

北陸三県和牛子牛市場の開催

4月21日、金沢市の北陸三県家畜市場において、令和4年度第1回の北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢107頭、雌72頭の計179頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢28頭、雌17頭の計45頭の取引が成立しました。全体の出場頭数は、前回より33頭（20%以上）増加となりました。平均価格は、去勢で662千円（2月市場639千円）、雌で590千円（同568千円）、全体では633千円（同611千円）でした。また、最高価格は去勢で885千円、雌が700千円でした。次回の開催は令和4年6月23日（木）になります。（東部家保防疫課 宮澤獣医師）

☆ お 知 ら せ ☆

県畜産関係職員人事異動

氏 名	所 属	
木全 綾	西部家畜保健衛生所主任	退職（4月30日付け）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
 〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話 (076) 479-1106 FAX (076) 479-1140
 編集者 神吉 武（富山県西部家畜保健衛生所）